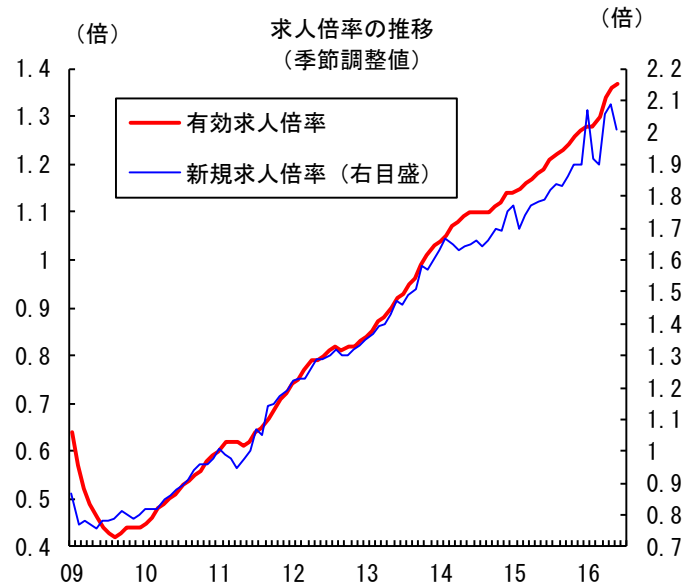
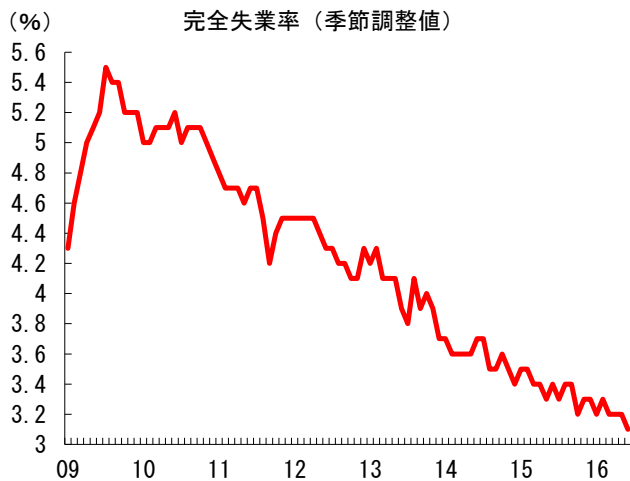


テーマ：労働力調査・一般職業紹介状況（2016年6月） 発表日：2016年7月29日（金）
 ～雇用情勢は好調持続～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528



（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

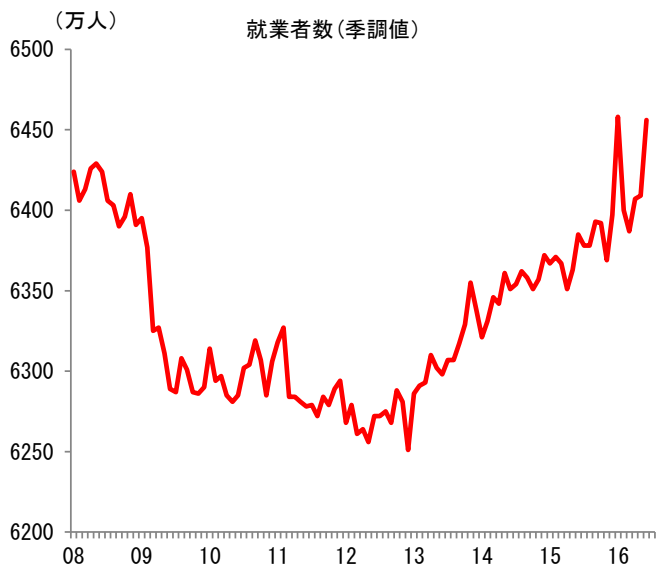
○雇用は着実に増加

総務省から発表された2016年6月の完全失業率は3.1%と、前月から0.1%Pt改善した（市場予想：3.2%）。これは1995年7月以来の低水準であり、労働需給が引き締まった状態にあることが示されている。

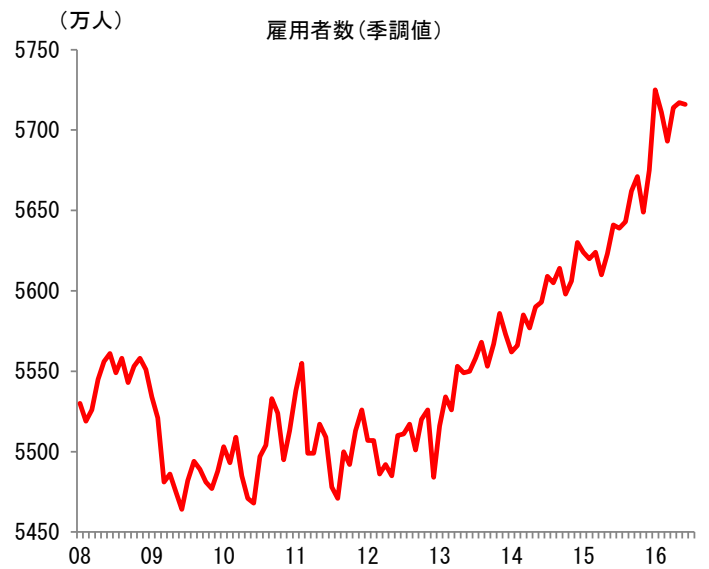
季節調整済みの就業者数は前月差+47万人（5月+2万人）、雇用者数が前月差▲1万人（5月+3万人）と、特に就業者数の増加が大きかった。月々の振れは大きいものの、均してみれば就業者数、雇用者数とも引き続き増加基調にある。また、前年比でみると就業者数が+1.1%、雇用者数が+1.3%と高い伸びとなっている。就業者数、雇用者数とも、昨年と比べて伸びが拡大傾向にあり、雇用が着実に改善していることがみてとれる。

○求人も好調持続

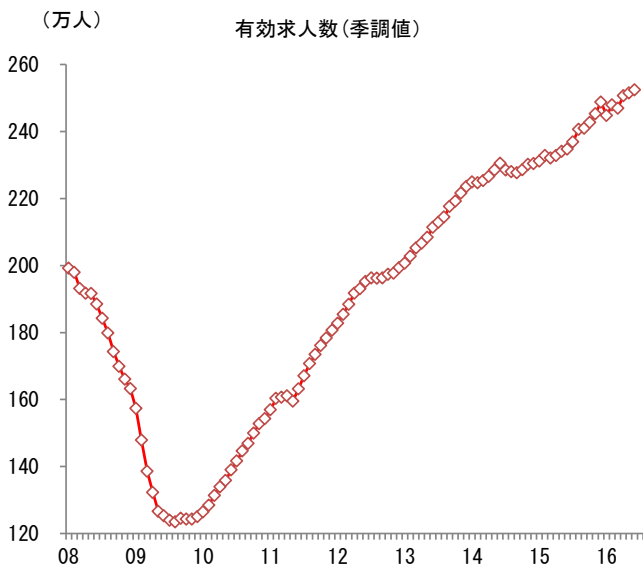
厚生労働省から公表された16年6月の有効求人倍率は前月から0.01ポイント改善の1.37倍、新規求人倍率は前月から0.08ポイント悪化の2.01倍となった。有効求人倍率は4ヶ月連続の改善で、1991年8月以来の高水準となっている。新規求人倍率は低下したが、4、5月に急上昇した反動の面が大きく、均してみれば非常に好調な状況が続いていると判断される。また、より企業の求人意欲の実態を示す求人数を見ると、有効求人数が季節調整済み前月比+0.4%（5月：+0.3%）、新規求人数は前月比▲2.3%（5月：+3.1%）となっている。新規求人数は反動から減少しているが、均せば順調。求人増加傾向に変化はない。このように、雇用者数の動きに先行する求人数が改善傾向を続けていることからみて、先行きも雇用情勢は堅調さを持続する可能性が高いだろう。なお、有効求人数、新規求人数を前年比でも、昨年と比べて伸びが高まっているように見える。景気は停滞感の強い状態が続いているが、求人数はむしろ伸びが加速しているようだ。こうした良好な雇用情勢は、景気の停滞感が強いなか、数少ない好材料である。



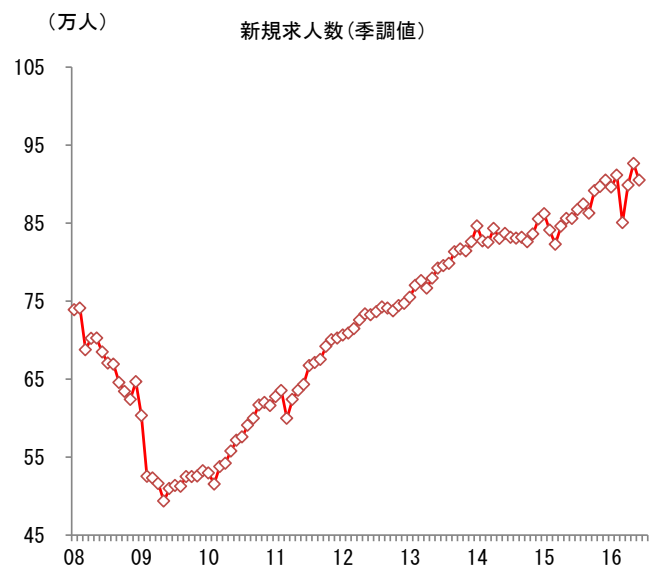
(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」